

## 1 単元名 「平成時代」を考える

## 2 単元について

## (1) 生徒観

3年1組は、男子20名、女子20名の計40名のクラスである。物事に真面目に取り組む生徒が多く、授業態度も前向きである。既習事項を問うような、答えが明確な発問に対しては積極的な発言がある。また、教科書等を用いた調べ学習にはじっくりと取り組むことができる。

一方で、答えが一つではなく、自分なりの考えが求められるような問いに対して考える学習活動は苦手とする生徒が多い。また、授業全体では発言者が偏り、自らの意見を述べることに消極的な生徒が多い傾向が見られる。それは、グループ学習のような小単位での学習活動でも同様である。

本校社会科がめざす「社会の形成者としての資質・能力」を育成するためには、生徒が意欲的に学習活動に取り組むことが欠かせない。また、他者とのかかわりの中で、自ら考察したり、判断したりする態度が重要である。そのため本単元においては、生徒が興味・関心をもてるような教材を提示し、自分なりの考えが求められるような問いに対しても取り組んでみようとする意欲を高めさせたい。また、グループ学習のような小単位での学習活動を仕組み、全員が必ず発言しなければならないような課題を与え、自らの意見を述べることへの抵抗感を取り除き、仲間と話し合ったり、意見を交換し合ったりすることの楽しさや大切さを実感させたい。

## (2) 教材観

本単元では、「平成時代」について多様な情報を集め、多面的・多角的に時代を大観する学習を行う。新学習指導要領の大項目C「近現代の日本と世界」の中項目(2)「現代の日本と世界」(イ)「日本の経済の発展とグローバル化する世界」にあたる学習内容である。

30年にわたって続いた平成時代は、さまざまな分野において大きな変化の起こった時代であったといえる。政治面では、55年体制が終わり、非自由民主党連立政権の樹立、自由民主党を中心とする連立政権、民主党による政権交代、繰り返される政党の離合集散など、常に変化の連続であった。その中で、いわゆる“無党派層”と呼ばれる、特定の支持政党をもたない人々が多数を占めるようになっていたり、衆議院議員選挙に小選挙区制が導入されたりして、選挙の在り方も大きく変わってきた。また、国・地方いずれの選挙においても投票率が低下し、とくに若者の選挙離れがさかんに指摘されるようになった。その中で、選挙権年齢が18歳に引き下げられたり、SNSを活用したネット選挙が解禁されたりするなど、その仕組みも大きく変化した。外交面では、冷戦が終結し、いわゆる大国の力が相対的に低下する中で、中国をはじめとした新興国が台頭した。また、テロリズムが世界各地で起こったり、ポピュリズムが台頭し、先進各国で右翼勢力が政治権力をもったりするなど、世界情勢は不安定化していった。その中で日本は、アメリカとの同盟関係を軸としながらも、中国や韓国、インド、ASEANなどアジア諸国やアフリカ諸国との関係強化に努めてきた。しかし、歴史認識などを背景とする摩擦が強まり、近隣諸国との関係が緊張することもあった。また、国際社会との協調を図る中で国連安全保障理事会において、非常任理事国を10回務めたり、PKO協力法などを整備し、資金面だけでなく、人的支援も行うようになってきた。経済面では、バブル経済が崩壊し、平成大不況が続いた。中国などアジア諸国の台頭などにより、アメリカ中心の経済体制にも変化が生まれ、日本企業の国際的競争力は相対的に低下した。戦後、世界的な企業に成長した“大企業”が苦戦を強いらせる中で、グローバル化・情報化の流れに乗り、急成長を遂げる企業も現れた。終身雇用制、年功序列型賃金制度などを採用しない企業も多くなった。また、株式等の売買によって利益を得ようとする動きや仮想通貨の流通などにより、実体経済だけではとらえきれない動きも活発になった。文化・生活面では、インターネットの普及により、テレビを中心としたマスメディア発信の文化・生活創造だけで

なく、それまで情報の受け手であった人々が情報を発信できるようになり、その人々によって多様な文化・生活がつけられるようになった。また、スポーツ界、芸能界においても若い世代が台頭し、それまでの文化・生活を継承しつつも、新しい視点を加えた芸術が創造されていった。

教科書（帝国書院）では、「平成時代」に関する記述は、他の時代に比べて少ない。しかし、生徒たちが生きてきたのは「平成時代」であるし、新しく始まる時代は「平成時代」の延長線上にあり、「平成時代」に築かれた社会を基礎として、その課題も引き継ぎ、展開されていく時代である。その意味において、次の時代を担う生徒にとっては学習する価値の高い時代であり、関心をもって学習活動に取り組むことができると考える。

### （3）指導観

新学習指導要領の歴史的分野においては、大項目B以降のすべての中項目の目標に「・・・を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること」が挙げられている。生徒たちはこれまで、政治の展開、経済の発達、社会の様子、文化の特色などについて他の時代との共通点や相違点に着目して学習内容を比較したり、関連付けたりして各時代の特色を理解する学習に取り組んできた。本単元では、これまでの学習で身に付けた力を活用して、「平成時代」の大観に取り組ませたい。

単元の終末に設定する「教科書の年表の『平成時代』に載せるべき出来事は何か」を考えるパフォーマンス課題に取り組む場面では、自らの「平成時代」観に基づき、根拠をもった選択・判断ができるよう指導していきたい。そうすることで、各自の「平成時代」観がはっきりしたり、互いの時代観の違いが明確になったりして、生徒が「時代の大観」を行うことができると考える。その際、昭和時代以前の時代の年表についてどのような出来事が取り上げられているか着目させ、前後の歴史的事象との因果関係があり、社会の形成に大きく関わったり、その時代の特色を象徴したりする事象が重視されていることに気づかせたい。また、「多面的・多角的」に「平成時代」を捉えさせるために、年表に載せるべき出来事を選択した根拠を説明させる際には、「平成時代」のどの側面に着目したのか（多面的）、どの立場から考えたのか（多角的）を明確にさせたい。

年表については、小学校の学習でも活用するものであり、全体総論で述べている「スキーマ」にあたるものである。「スキーマ」である年表を活用することで、時代の特色を捉える学習に取り組みやすくなると考える。

## 3 全体研究・教科研究との関わり

### （1）「見方・考え方」を働かせた学びを実現するための工夫

生徒は、「平成時代の特色は何だろうか」という学習課題に答えようとする時、自ずと歴史的な見方・考え方を働かせると考えられる。なぜならば、この学習課題に答えるためには、昭和時代などこれまで学習した時代と平成時代の政治の展開や経済の発展、社会の様子などについて、「変化」「時代の転換」「原因と結果」「影響」などの視点に着目をして、比較したり、関連付けたりする必要があるからだ。また、4人グループでの議論で仲間の意見を聞いたり、自らの考えについて意見を述べてもらったりすることを通して、その歴史的な見方・考え方がより深まると考えられる。

「平成時代」の歴史的事象について考える時は、背景としての自然環境などに着目するなど、地理的な見方・考え方が、また「平成時代」は“現代”であるので、その時代を深く考察するためには、現代社会の見方・考え方が必要となるので、本校社会科でとらえる「見方・考え方」が働くと考えられる。

本単元では、3年間の授業の中で育成してきた「見方・考え方」を生徒が自ら発揮できるよう支援していきたい。

### （2）「見方・考え方」を働かせた学びを通して育成した資質・能力を見取る評価の工夫と活用

#### ① 「学びの記録」

教科総論で述べた通り、本単元では毎回の授業後に「単元の学習課題」に対して、「学習課題の解決にどこま

で近づけたか」、「次回からの学習で何を学ぶことが必要か」を「学習の記録」に記述させる。単元の目標と学習課題を常に確認しながら記述させることで、単元全体の学習において、生徒がどの程度の到達度にあるのかを把握し、授業の改善に活かすことができる。とくに、生徒にとって理解が難しかった部分の補説や単元の目標を達成する上で不足している視点や情報を与えることなどに取り組んでいきたい。また、「次回からの学習で何を学ぶことが必要か」を授業の初めに共有し、生徒に自覚させることで、授業で何を学ぶべきか、どのような学び方をすればよいのかなどを生徒に考えさせることができる。その積み重ねによって、生徒は自らの学びをメタ認知し、学習調整の力を高めて、「主体的に学習に取り組む態度」を身につけることができると考える。

## ② パフォーマンス課題の設定

本校社会科では、教科総論で述べた通り、単元の目標として設定されている資質・能力が育まれたかを見取るために、それらの資質・能力を活用しなければ解決できないパフォーマンス課題を設定する。本単元の目標の重要な要素は「生徒が、歴史的な見方・考え方を働かせて、『平成時代』の特色を捉えること」である。そこで本単元では、パフォーマンス課題として「教科書会社の編集部の一員として、教科書の巻末年表の『平成時代』を作成することとなった。そのための編集会議で、平成時代の出来事として取り上げるべき事象を3つ提案する。3つの事象を選択した根拠を明確にして説明しなさい。」を設定した。生徒がこのパフォーマンス課題に取り組む際、単元の学習を通して育まれた「平成時代の特色に対する理解」に基づいた判断がなされると考える。

パフォーマンス課題の評価については、「編集方針」という形でルーブリックを事前に生徒に提示し、生徒自身に評価させる。ルーブリックを事前に提示することで、生徒の学びを単元の目標の達成につなげることができる。また、自分自身で評価を行うことで、生徒が自らの学びを振り返ることもできると考える。

ルーブリックについては、教科総論で述べた通り、生徒自身が振り返りやすいように、ルーブリックに示す評価の段階を5段階にし、分かりやすい表現にするよう努めた。また、2つ前の単元である「昭和時代（戦前）」においても、本単元と同様のパフォーマンス課題を設定し、単元の学習後にルーブリック自体を生徒に振り返らせ、その意見をもとにルーブリックをつくりかえて、本単元のパフォーマンス課題の評価を行わせたい。

## (3) 総合的な学習の時間との関連

教科総論で述べた通り、本校社会科では各単元とSELFのめざす資質・能力の関わりを明確にした教育課程の編成に取り組んでいる。本単元では、「学習の記録」への記述やパフォーマンス課題を振り返る際には、自らの学びを振り返り、次の学習へつなげる「自己省察力」を活かすことができると考える。この資質・能力については、2年次の探究的学習「日本の伝統文化と私たち」の中でも育成している。その時の思考ツールやワークシートなども活用しながら、本単元の学習を進めていきたい。また、本時の学習方法についても「日本の伝統文化と私たち」の情報整理・分析の場面での学習方法学習を活かしていきたい。

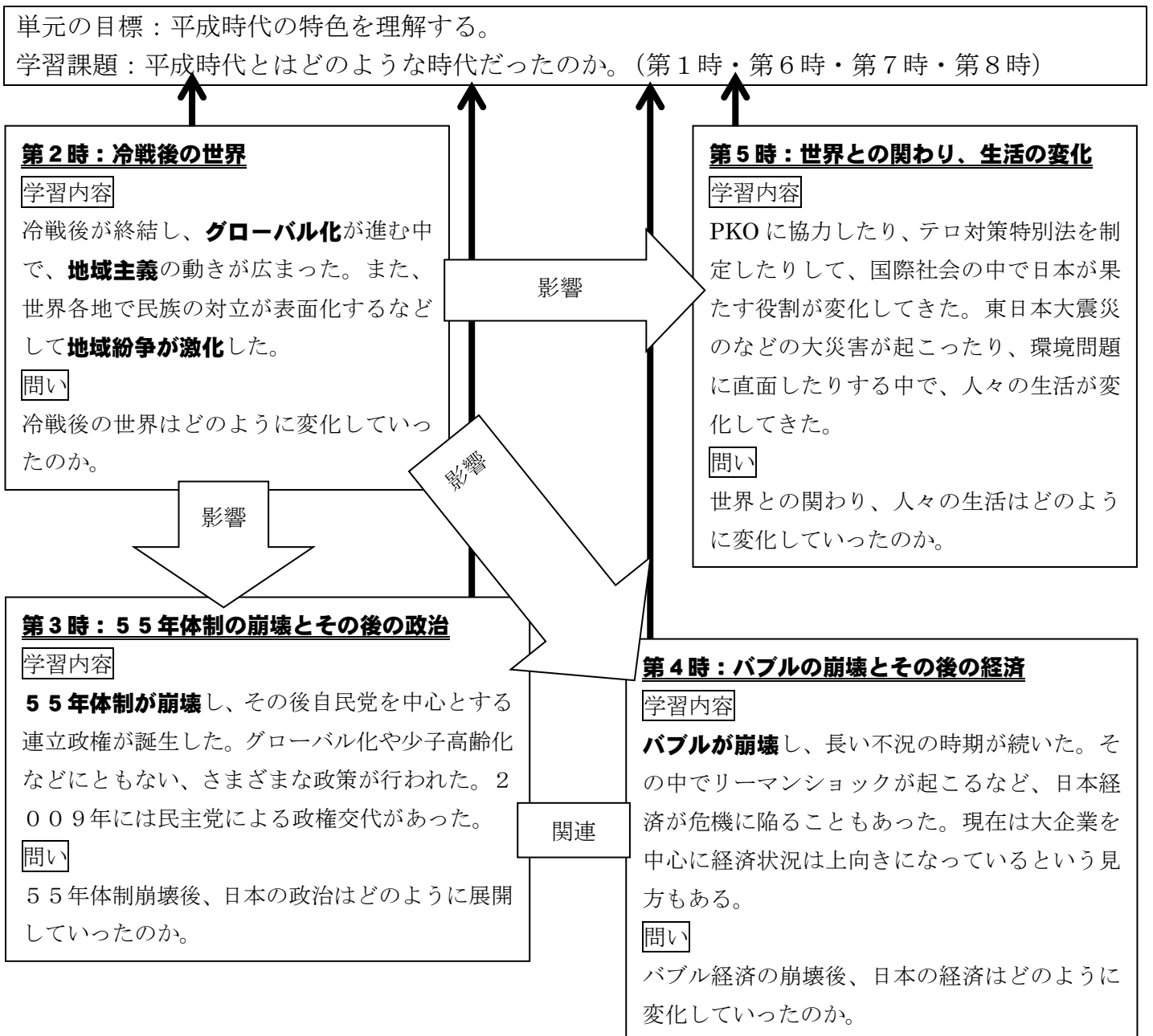
## 4 単元の指導目標

- (1) 平成時代の政治の展開、経済の発展、社会の様子について、資料から読み取った情報をもとに理解させ、その知識を身につけさせる。
- (2) 平成時代を大観させ、これまでの学習で身につけた見方・考え方を働かせて、平成時代の政治の展開、経済の発展、社会の様子、文化の特色などに着目させて、時代の特色を多面的・多角的に考察させ、表現させる。
- (3) 平成時代に関心をもたせるとともに、意欲的に追究し、時代の特色をとらえようとする態度を育てる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昭和時代以前の歴史的事象と因果関係があったり、これからの日本社会に大きな影響を及ぼす可能性が高かったりする事例をもとに、平成時代の「政治」「経済」「社会」の分野において起こった変化について、適切な資料を収集し、そこから読み取ったことをもとに理解し、その知識が定着している。	これまでの学習を踏まえて、「変化」「時代の転換」「原因と結果」「影響」などの視点から、昭和時代以前の歴史と平成時代の歴史を関連付けて考察し、表現している。  地理的な見方・考え方や現代社会の見方・考え方も必要に応じて働かせて、平成時代について考察し、表現している。	平成時代に関心をもち、授業中の調べ学習や話し合い活動、パフォーマンス課題に対する自分の考えを記述する作業などに積極的に取り組んでいる。  学習の記録に、「自らの学びにおいて不足していること」が記述されている。  他者の意見を参考にして、自らの学びを深めようとしている。

6 単元の構想図（学習内容と問いの整理）



7 単元の指導計画（全8時間）

	主な学習内容	評価規準
1	「平成時代」の概要を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の知識やイメージをもとに、「平成時代」像を説明している。</li> <li>「平成時代」に関心をもっている。</li> </ul>
2	グローバル化が進む世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷戦後の世界の様子や日本との関わりについて理解し、その知識を身につけている。</li> </ul>
3	激変する日本とアジア①	<ul style="list-style-type: none"> <li>「政治」「外交」の分野において、日本がどのように変化したか、情報をもとに考察し、説明することができる。</li> </ul>
4	激変する日本とアジア②	<ul style="list-style-type: none"> <li>「経済」の分野において、日本がどのように変化したか、情報をもとに考察し、説明することができる。</li> </ul>
5	国際社会におけるこれからの日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災や環境問題に直面する中で、人々の生活がどのように変化したかを理解し、その知識を身につけている。</li> <li>大きく変化する国際社会にあって、日本はどのような役割を果たすべきか、これまでの歴史を踏まえ、構想している。</li> </ul>
6	「平成時代」の特色をとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習で身につけた見方・考え方を働かせて、平成時代の政治の展開、経済の発展、社会の様子などに着目して、時代の特色を多面的・多角的に考察している。</li> </ul>
7 <b>(本時)</b>	『平成時代』に起こった出来事の中で、教科書の年表で取り上げるべき出来事は何かについて、お互いの考えを交流し、深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>パフォーマンス課題に取り組むことを通して、自らの「平成時代」観を振り返り、深めることができる。</li> </ul>
8	「平成時代」の特色について説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習をもとに、自らの「平成時代」観を深め、説明している。</li> </ul>

8 本時の授業

(1) 日 時 令和元年6月29日(土)

(2) 場 所 山梨大学教育学部附属中学校 3年1組

(3) 題材名 「教科書の年表に取り上げるべき出来事を考えよう。」

(4) 本時の指導目標

・パフォーマンス課題に取り組むことを通して、自らの「平成時代」観を振り返らせ、深めさせる。

【思考・判断・表現】

(5) パフォーマンス課題

教科書会社の編集部の一員として、教科書の巻末年表の『平成時代』を作成することとなった。そのための編集会議で、平成時代の出来事として取り上げるべき事象を3つ提案する。3つの事象を選択した根拠を明確にして説明しなさい。

(6) ルーブリック

パフォーマンスの特徴 (発表の内容)
時代の特色が明確になる
時代の転換点が説明される
様々な側面から時代をみる
様々な立場から時代をみる
後世に影響を与えている

(7) 展 開

	●学習内容 ・学習活動	・説明や指示、支援	指導上の留意事項
導 入	●前時までの学習活動と本時の学習活動の確認	・前時までに取り組んできた学習活動と本時で取り組む学習活動の内容を確認する。	・学習活動の目標を明確にする。(ルーブリックの確認)
	<b>パフォーマンス課題</b> 教科書会社の編集部の一員として、教科書の巻末年表の『平成時代』を作成することとなった。そのための編集会議で、平成時代の出来事として取り上げるべき事象を3つ提案する。3つの事象を選択した根拠を明確にして説明しなさい。		
展 開 1	●意見の発表とルーブリックに基づいた評価 ・3人グループで、それぞれの意見を発表する。(1分30秒) ・ルーブリックに基づいて、相互に評価し合う。(3分30秒) ・評価をもとに話し合う。(2分30秒)	・互いに評価を聞き合うだけでなく、その評価に対して質問するなど、話し合いが活発に行われるよう支援を行う。 ・机間指導を行い、ルーブリックに基づいた評価ができているか確認する。	・すべての生徒が発言できるよう、机間指導を中で支援する。 ・良いところだけでなく、アドバイスや質問も書くよう指導する。
展 開 2	●パフォーマンス課題を自己評価する。 ・ルーブリックに基づいて、仲間からの意見をもとに自らの学習成果について評価する。 ・自己評価をもとに、3つの出来事を選びなおす。		・同じものを選択してもよいが、理由がより深まるように指導する。
終 末	●振り返り ・自己評価や他者評価をみて、気づいたこと、考えたことを記述する。 ・3人グループの中で、振り返りを共有する。 ・クラス全体で数名が発表する。	・生徒の振り返りをもとに、生徒たちの学びの深まりについて説明するとともに、「歴史の特色」をつかむ上で何が大切か説明する。	

#### (8) 本時の評価

- ・ルーブリックを用いて自らの学びを評価することを通して、平成時代の特色を「転換点」「変化」「影響」「関連」に着目してより多面的・多角的にとらえることができている。

【思考・判断・表現】

#### (9) 板書計画

- ・実物投影機等を活用して、生徒の意見を全体で共有できるようにする。
- ・パフォーマンス課題の内容については、課題文を大きく拡大したものを黒板にはる。

### 9 参考文献

- ・文部科学省（2018年）『中学校学習指導要領解説 社会科編』東洋館出版社.
- ・金沢大学附属中学校（2019年）『研究紀要第61号』.金沢大学附属中学校
- ・小熊英二編（2019年）『平成史』河出書房新社
- ・内田樹ほか（2017年）『激動の平成史』洋泉社
- ・吉見俊哉（2019年）『平成史講義』筑摩書房
- ・保阪正康（2019年）『平成史』平凡社